

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔茨城県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	笠間市立岩間中学校	14(2)	424
連携校 (拠点校中学校区 内の小学校)	笠間市立岩間第一小学校	14(2)	349
	笠間市立岩間第二小学校	7(1)	161
	笠間市立岩間第三小学校	13(2)	314

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査(アンケート共通項目)

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをすることは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	386	47.4	41.5	9.3	1.8	61.6	33.2	4.0	4.8	21.8	55.6	19.7	2.6	20.2	56.7	20.5	2.6
		前年②	382	42.4	46.6	8.1	2.9	61.3	31.9	4.2	2.6	26.7	53.4	16.2	3.7	17.3	56.5	22.5	3.7
		本年①	407	41.3	45.7	9.8	3.2	61.7	33.7	4.0	2.5	27.5	54.5	14.7	3.2	29.7	50.1	18.4	1.7
		本年②	389	44.2	44.4	9.0	2.3	56.8	35.5	5.9	1.8	28.8	50.6	17.0	3.6	20.4	54.1	21.4	4.1
	3	中2①	141	39.7	43.3	14.9	2.1	58.2	35.5	5.0	1.4	11.3	55.3	28.4	5.0	12.1	58.2	25.5	4.3
		中2②	139	33.1	52.5	10.1	4.3	59.7	30.2	6.5	3.6	17.3	55.4	21.6	5.8	12.2	53.2	26.1	6.5
		中3①	141	32.6	51.1	13.5	2.8	56.0	39.0	5.0	0.0	29.1	52.5	14.9	3.5	17.0	56.7	23.4	2.8
		中3②	131	45.8	45.8	6.1	2.3	64.1	29.8	3.8	2.3	38.9	46.6	13.7	0.8	17.6	49.6	29.0	3.8
	2	中1①	130	52.3	42.3	3.8	1.5	66.2	27.2	5.1	1.5	31.1	51.2	17.1	0.8	31.5	56.2	12.3	0.0
		中1②	124	42.7	50.0	4.8	2.4	55.6	39.5	3.2	1.6	25.8	55.6	15.3	3.2	19.4	57.3	22.6	0.8
		中2①	125	36.8	51.2	8.8	3.2	60.8	34.4	4.0	0.8	20.8	56.0	20.0	3.2	24.0	48.8	25.6	1.6
		中2②	118	41.5	44.9	10.2	3.4	45.8	44.1	8.5	1.7	21.2	51.7	21.2	5.9	17.9	49.6	24.8	7.7
	1	小6①	146	56.2	37.0	6.2	0.7	71.9	24.0	3.4	0.7	23.3	57.5	18.5	0.7	42.5	50.0	6.2	1.4
		小6②	146	50.0	41.1	7.5	1.4	67.1	28.1	4.1	0.7	20.5	61.0	16.4	2.1	38.4	50.7	9.6	1.4
		中1①	141	53.9	35.5	7.1	3.5	68.1	27.7	3.6	0.7	31.9	55.3	9.9	2.8	47.5	44.7	7.1	0.7
		中1②	140	45.0	42.9	10.7	1.4	59.3	33.6	5.7	1.4	25.7	53.6	16.4	4.3	25.0	62.1	11.4	1.4
小学校	高学年計	前年①	274	56.6	34.7	7.3	1.5	72.3	22.6	4.4	0.7	34.3	50.0	15.0	0.7	46.0	47.8	5.5	0.7
		前年②	273	50.2	39.6	8.1	2.2	69.6	26.7	3.3	0.4	23.4	60.8	14.3	1.5	46.2	44.7	8.1	1.1
		本年①	291	40.2	45.7	7.9	6.2	61.2	30.9	5.5	2.4	27.1	50.9	17.5	4.5	47.1	43.0	7.9	2.1
		本年②	284	53.2	38.7	7.0	1.1	69.4	26.1	2.8	1.8	31.3	50.0	16.2	2.5	58.8	35.2	4.6	1.4
	6	小5①	128	57.0	32.0	8.6	2.3	72.7	21.1	5.5	0.8	46.9	41.4	10.9	0.8	50.0	45.3	4.7	0.0
		小5②	127	50.4	37.8	8.7	3.1	72.4	25.2	2.4	0.0	26.8	60.6	11.8	0.8	55.1	37.8	6.3	0.8
		小6①	128	39.1	43.8	11.7	5.5	60.2	33.6	3.9	2.3	28.9	55.5	13.3	2.3	51.6	41.4	7.0	0.0
		小6②	126	57.9	34.9	6.3	0.8	69.8	26.2	3.2	0.8	34.1	50.8	15.1	0.0	60.3	34.9	4.8	0.0
	5	小5①	163	41.1	47.2	4.9	6.7	62.0	28.8	6.7	2.5	25.8	47.2	20.9	6.1	43.6	44.2	8.6	3.7
		小5②	158	49.4	41.8	7.6	1.3	69.0	25.9	2.5	2.5	29.1	49.4	17.1	4.4	57.6	35.4	4.4	2.5

学 校 種 類	学 年 等	実 施 時 期	児 童 生 徒 数 (人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中 学 校	全 学 年 計	本年①	407	82.6	10.8	5.4	1.2	74.7	16.2	6.4	2.7	83.5	11.5	3.7	1.2	81.6	14.3	2.7	1.5
		本年②	388	96.1	1.5	1.8	0.5	90.2	6.7	1.3	1.8	99.5	0.5	0.0	0.0	97.2	2.6	0.0	0.3
	3	中3①	141	86.5	6.4	6.4	0.7	75.2	15.6	5.7	3.5	86.5	8.5	4.3	0.7	83.0	14.2	1.4	1.4
		中3②	131	99.2	0.8	0.0	0.0	91.6	7.6	0.8	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	98.5	1.5	0.0	0.0
	2	中2①	125	76.0	15.2	7.2	1.6	71.2	19.2	8.0	1.6	79.2	15.2	3.2	2.4	78.4	17.6	1.6	2.4
		中2②	118	95.8	0.8	3.4	0.0	86.4	8.5	2.5	2.5	99.1	0.9	0.0	0.0	98.3	1.7	0.0	0.0
	1	中1①	141	84.4	11.3	2.8	1.4	77.3	14.2	5.7	2.8	84.4	11.3	3.5	0.7	83.0	11.3	5.0	0.7
		中1②	139	93.5	2.9	2.2	1.4	92.1	4.3	0.7	2.9	99.3	0.7	0.0	0.0	95.0	4.3	0.0	0.7
小 学 校	高 学 年 計	本年①	291	78.0	7.6	7.2	7.2	69.4	13.7	9.6	7.2	80.4	10.0	6.5	3.1	81.4	11.3	5.5	1.7
		本年②	283	81.3	13.1	2.8	2.8	76.9	13.3	5.9	3.8	83.3	14.4	0.7	1.1	82.4	15.8	1.8	0.0
	6	小6①	128	76.6	4.7	9.4	9.4	73.4	9.4	8.6	8.6	78.9	9.4	7.8	3.9	80.5	12.5	4.7	2.3
		小6②	125	80.8	15.2	1.6	2.4	77.8	15.1	3.2	4.0	83.3	14.3	0.8	1.6	81.7	15.1	3.2	0.0
	5	小5①	163	79.1	9.8	5.5	5.5	66.3	17.2	10.4	6.1	81.6	10.4	5.5	2.5	82.2	10.4	6.1	1.2
		小5②	158	81.6	11.4	3.8	3.2	76.3	11.9	8.1	3.8	84.2	14.6	0.6	0.6	82.9	16.5	0.6	0.0

※小学校は、連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施したもの

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

※本年度第2回(②)以外は、「ブロック協議会資料」に記載した数値を記入

4 課題・目標・取組

課題	学力の定着に個人差が見られる。また、集団生活の中で人間関係をうまく構築できない児童生徒が見られる。
目標	意欲的に学び基礎学力を身に付け、好ましい人間関係の中で明るく主体的に活動する心豊かな児童生徒の育成を図る。
取組	授業づくりを工夫することにより、基礎学力の定着を図るとともに、集団づくり、豊かな人間関係を充実させ、心豊かな児童生徒を育む。

5 重点推進事項

小・中共通	① 学習指導の改善を通して、主体的に学ぶ意欲を育て、基礎学力の定着を図る。 ② 豊かな心の育成と人間関係づくりを通して、心の居場所づくりを推進する。 ③ 小小、小中連携および家庭、地域との連携を通して、9年間を見通した教育活動を推進する。
中学校	① 学習指導の改善を通して、基礎学力の定着を図る。 ② 豊かな心の育成を通して、豊かな人間関係の構築を図る。
小学校	① 学習指導の改善を通して、基礎学力の定着を図る。(全校) ② 豊かな心の育成を通して、豊かな人間関係の構築を図る。(全校)

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
<p>○ 中学 3 年生では、「授業に主体的に取り組んでいる」に「あてはまる」と回答する生徒が調査を実施する毎に増加した。 11.3%→38.9%</p> <p>○ 小学 6 年生では、「授業がよくわかる」に「あてはまる」と回答する児童が増加した。 42.5%→60.3%</p> <p>○ 中学 3 年生では、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」に「あてはまる」と回答する生徒が増加した。 ・学校が楽しい 39.7%→45.8% ・みんなで何かをするのは楽しい 58.2%→64.1%</p> <p>○ 小学 5,6 年生共に「みんなで何かをするのは楽しい」の項目で、肯定的な回答が9割以上の高い数値を維持した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって「分かる授業」を目指し、生徒を主体にした授業に改善していくことを教師が意識するようになった。 ・進路の選択に向けて、生徒一人一人の課題に応じて学習の大切さを継続して指導したことが自主的な学習態度につながった。 ・児童が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫した。 ・話し合いや学び合いを取り入れ、お互いの考えを交流し合いながら、一人一人の理解が深まるよう、授業改善に取り組んだ。 ・目標やねらいを明確にした授業、ペアやグループでの話し合い活動、自分の考えを図や言葉で表現する活動等の充実を図ることにより、学習に対する達成感が高まった。 ・「振り返り」の時間を確保することによって、基礎的・基本的事項の定着を図った。 ・小小、小中で全職員による相互授業参観や研究協議会への参加により、授業力の向上に努めた。 ・焦点を絞った研究協議を行うことで、成果や課題が明確になり、改善を図ることができた。 ・落ち着いた学校生活を送るために、行動面の評価規準について学年で話し合っ統一を図り、学年職員で共通理解のもとに個に応じた指導に取り組んだ。 ・体育祭や合唱コンクールに向けて、学級のまとまりを意識しながら、生徒自ら工夫して練習に取り組めるよう、時間や場を設定した。 ・実行委員形式で生徒が自分の持ち前を生かして活躍できる場を設定して、その取り組みを称賛することにより、責任感や自己肯定感を育成した。 ・給食や昼休みの遊び、清掃活動などに縦割り班活動を取り入れるなど、子ども同士が関わりを深める機会を計画的に設けた。 ・運動会や収穫祭などの学校行事、新入生を迎える会などの集会活動を児童が企画、運営して取り組めるように工夫した。 ・地域との連携による「まつり」では保護者や地域の方々とのふれあい活動を通して、交流を深めた。

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
<p>○ 中学 2 年生は、すべての調査項目において肯定的な回答が減少した。</p> <p>○ 小学 5,6 年生共に「授業に主体的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答に大きな変化が見られなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に伴う人間関係の変化や学習規律に対する意識の緩みへの対応が不十分であった。 ・学習に対して苦手意識をもっている生徒への具体的な手立てが不足した。 ・学習内容が難しくなり、理解が不十分である児童に対して主体的に取り組むための手立てや個別の対応が不足した。 ・ペアやグループによる話し合い活動は充実したが、全体での話し合いの場面では限られた児童の発表を中心に授業が進行した。

10月	第2回市教育委員会訪問（全小） さつまいも収穫（全小）	○ ○	第5回岩間地区小・中連絡協議会（小・中） ブロック協議会〔千葉〕（小・中） 第2回魅力ある学校づくり調査研究委員会（小・中）	○ ○ ○
11月	授業相互参観（全小）	○	第6回岩間地区小・中連絡協議会（小・中） 第3回小中合同研修会【小中合同】	○ △
12月	第2回意識調査 小中学生指導情報交換会（全小）	○ ○	第2回意識調査 第7回岩間地区小・中連絡協議会（小・中）	○ ○
1月	中学校見学（全小：6年）	○	新入生保護者説明会	○
2月	第3回市教育委員会訪問（全小）	○	第8回岩間地区小・中連絡協議会（小・中） 第2回連絡協議会〔東京〕（小・中）	○ ○
3月	6年生を送る会（全小）	○	第9回岩間地区小・中連絡協議会（小・中） 第3回魅力ある学校づくり調査研究委員会（小・中） 小中学校担任連絡会（小中）	○ ○ ○

<平成25年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	新入生を迎える会（全小・全学年） 通学班集会（全小・全学年）	○ ○	新入生歓迎会 第1回小・中連絡協議会（小・中）	○ ○
5月	第1回意識調査（全小） 授業相互参観（全小） 縦割り班集会（二小）	○ ○ ○	第1回意識調査 第2回小・中連絡協議会（小・中） 第1回魅力ある学校づくり調査研究委員会（小・中）	○ ○ ○
6月	第1回市教育委員会学校訪問（全小） 学校生活アンケート①（全小）	○ ○	第1回市教育委員会学校訪問 4校合同生徒指導部員会①【小中合同】	○ ○
7月	保護者面談（全小）	○	第3回小・中連絡協議会（小・中） 4校合同生徒指導部員会②【小中合同】	○ ○
8月	PTA奉任作業（全小:高学年）	○	第4回小・中連絡協議会（小・中） 研修会①【小中合同】 研修会②【小中合同】	○ ○ ○
9月	生徒指導対策会議（全小）	○	生徒指導対策会議 生活状況アンケート	○ ○
10月	第2回市教育委員会訪問（全小）	○	第2回市教育委員会訪問 第5回小・中連絡協議会（小・中） ブロック協議会（小・中） 第2回魅力ある学校づくり調査研究委員会（小・中）	○ ○ ○ ○
11月	マナーアップ集会（全小） 授業相互参観（全小） 第2回意識調査（全小:高学年）	○ ◇ △	第6回小・中連絡協議会（小・中） 第2回市教育委員会学校訪問 第2回意識調査 4校合同生徒指導部員会③【小中合同】	○ ○ ○ ○
12月	学習相談（一小:3～6年） 授業参観・懇談会（全小）	○ ○	第7回小・中連絡協議会（小・中） 生徒指導情報交換会③【小中合同】	○ ○
1月	中学校見学（全小：6年）	○	第3回魅力ある学校づくり調査研究委員会（小・中）	△
2月	授業参観・懇談会（全小）	○	第8回小・中連絡協議会（小・中） 4校合同生徒指導部員会④【小中合同】	○ ○
3月	6年生を送る会	○	第9回小・中連絡協議会（小・中） 小中学校担任連絡会（小・中）	○ ○

(2) 重点推進事項の実施状況

〔小・中共通〕

① 小中連携による授業の相互参観

市教育委員会の訪問指導等を活用して、小中、小小相互の授業参観や授業研究、授業改善のための職員研修を行った。指導案を作成する際には、本時の目標に迫るための手立てをできるだけ具体的に記述するように職員間で検討を重ねた。また、授業の相互参観表を作成して「温かい人間関係づくり」「導入や資料提示の工夫」「言語活動の質を高める工夫」など授業を観る視点を明確にすることにより、授業後の研究協議での絞って話し合うことに役立てることができた。



- ② 学級や学校をどの児童生徒にも落ち着ける場所にしていくためにすべての児童生徒に対して分かる授業を実践していくためには、特別支援的な援助指導が必要な児童生徒への配慮も重要である。大学教授を招いて小中合同で研究会を行い、児童生徒の思考や行動の特徴をそれらへの適切な対応、学級における一人一人を大切にす指導について学ぶ機会を設けた。

③ 9年間を見通した教育活動

中学校で毎年、秋に実施している合唱コンクールに小学6年生を招待して中学生の歌声を披露した。小中で連携を図って時間等を調整し、6年生の移動には安全面を考慮して、市所有のバスを活用した。中学校の各学級の歌声を聴いたあと、中学生と小学生が向き合っ、6年生の教材である「翼をください」を全員で合唱した。はじめて中学校を訪れる児童もおり、6年生にとっては中学校を知るよい機会となった。



〔中学校〕

① 学習指導の改善

自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育むという3つの生徒指導の機能を生かした授業づくり、課題の工夫や場の設定の工夫、言語活動の質を高めるなどをキーワードに分かる授業の展開に取り組んだ。指導案の中に分かる授業への手立てについての観点を設けるとともに、指導案を作成する際には教科部員会で授業のねらいや課題をどのように提示するのか、各教科の特性に応じて学び合いの場をどのように工夫するのか等を検討して実践に臨んだ。



② 豊かな人間関係づくり

中学校に入学する際の大きな不安の一つは、上級生との人間関係がある。新入生の不安を和らげるために、入学式の翌日、生徒会が中心となって企画した「新入生を迎える会」を実施した。吹奏楽部の演奏や学年の枠を超えた対人関係ゲームを取り入れ、温かい雰囲気でも新入生を迎えられるように工夫した。



〔小学校〕

① 学習指導の改善

目標を明確にした上で、意図的にペアやグループでの話し合い活動を授業の中に取り入れた。自分の意見を友達と交流する中で、考えを確かなものにしたたり、新たな気づきを発見したりして、理解を深めていくことができた。また、自分の言葉でまとめる活動を徹底したことで、より一層の定着が図れた。(岩間一小)



ねらいを明確にし、意図的な関わり合いの場を設定することを通して、学習への意欲を高め、子ども同士の学びを深めることができた。また、振り返りの時間を確保することで、学んだことの確実な定着を図ることができた。(岩間二小)

見通しを立て、自分の考えを図や言葉・式で表現するなど、言語活動の充実を

意図した様々な取り組みにより，できたことへの自分なりの充実感や，友達と関わり合いながら学習する楽しさを多くの児童が実感できた。（岩間三小）

② 豊かな人間関係づくり

ペア学年による音楽の発表や読書集会，保健集会などを教師のサポートとともに，多くの児童が企画・運営し，参画意識を高めた。児童の持ち味を生かした主体的な活動となり，充足感を得ることができた。（岩間一小）

二小まつりでの保護者や地域の方々とのふれあい活動を通して，交流を深めることができた。また，全児童の心を一つにした「響け！歌声」や縦割り班活動でのさつまいも栽培等を通して，自己有用感を育むことができた。（岩間二小）

縦割り班ごとに，全員で遊びの内容を話し合い遊びのブースを出店した「さんさんまつり」では，商品等の準備，当日の分担も全員で協力して行い，達成感と強い絆が生まれた。

（岩間三小）



9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所		活動内容
4 (1) 事業全般		<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連絡協議会の開催 ・魅力ある学校づくり調査研究委員会の企画・運営 ・関係機関との情報交換，コーディネート
4 (2)	小・中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学区内小学校の生徒指導主事との情報交換，生徒指導対策会議の企画，運営，評価 ・定期的な小学校（連携校）訪問の連絡調整 ・授業や行事の相互参観調整
	小・小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学年部会の開催 ・生徒指導情報交換 ・相互授業参観
4 (3) データ収集、分析等		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒，職員の意識調査集計分析 ・欠席者数の集計分析
4 (4) 取組の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくり調査研究委員会の取組の評価 ・児童生徒，保護者，教職員など，今後の活動に生かす評価（アンケート等）の工夫
4 (5) 資料作成、広報等		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育との連携についての啓発資料の企画，作成 ・県生徒指導関係合同連絡協議会，市教育研究会教育実践発表会において，魅力ある学校づくり調査研究事業に係る取組発表 ・リーフレットの作成

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ コーディネーター役として，市教委担当指導主事及び連携校の担当者との連絡を緊密に行い，年間計画に基づいて調査研究事業に取り組むことができた。
- ・ 意識調査の結果を集計し，PDCA サイクルについて周知することにより，全

職員で児童生徒の実態に応じた改善点を考えることができた。

<課題>

- ・ 担当者間の連携は進んだが、全職員への周知、共通理解・共通実践のための手立てが不十分であった。
- ・ 豊かな人間関係づくり、学習指導の改善は各学校の取り組みが中心であり、小小連携及び小中連携を具体的な活動として十分に行うことができなかった。

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

[重点推進事項]

- ・ 調査研究事業の推進と明確な方向性の確認、小中連絡協議会での助言・指導
- ・ 各学校への定期的な訪問指導及び研修会の企画・立案
- ・ 生徒指導情報交換会への参加と助言指導及び関係機関との連携強化

[課題と成果]

- 定期的な小中連絡協議会を開催することにより、小中学校との連携が密になり本事業への見通しをもった取り組みと具現化ができた。
- 第2回の意識調査では、第1回目と比べて全体的に肯定的な意見が多く見られた。また、中学校の第1学年では不登校生徒数が0であった。
- 小・中連携、小・小連携、PTAとの連携を推進する取り組みでは十分に時間を確保するのが難しかった。
- 地域全体で本事業の取り組みについて広報し、地域全体を巻き込んだ取り組みができればと感じた。

(2) 都道府県教育委員会

[重点推進事項]

- ・ 事業の方向性及び進捗状況の確認
- ・ 効果的な取組を図るための助言
- ・ 県内各小中学校及び市町村教育委員会への取組成果の周知

[課題と成果]

- 県内のすべての市町村教育委員会等の参加によりブロック協議会を開催したことで、各市町村教育委員会への研究成果の周知を図ることができた。
- 県主催の生徒指導関係合同連絡協議会での実践発表により、広く研究成果の周知を図ることができた。
- 事業の方向性や進捗状況の確認等については、市町村教育委員会担当者と連携し、対応することができた。
- 効果的な取組についての助言指導については、拠点校及び連携校へより多くの訪問の機会を設定する必要があった。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所 属	人数	備 考 (主な職名等)
県教育委員会	1	担当指導主事 (県義務教育課)
市教育委員会	1	指導主事
拠点校	5	校長, 教頭, 教務主任, 生徒指導主事, 事業担当者
連携校	9	校長, 教頭, 事業担当者
地域から	8	PTA 会長, PTA 副会長, PTA 顧問

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ 不登校の未然防止に対する学校の取り組みについて、保護者や地域の視点から助言や情報提供を受けることができた。
- ・ 学区内小・中学校の不登校の状況や意識調査の結果を保護者代表、地域代表に知らせることで、各学校の取り組みについて理解と協力を得ることができた。

<課題>

- ・ 調査研究委員会を開催するために、学校と保護者、教育委員会相互の予定を調整すると、夜の時間帯しか調査研究委員会を開催することができない。
- ・ 調査研究委員会で話し合う課題が焦点化しきれず、各学校の取り組みの報告が多くなりがちである。
- ・ 子どもたちや学校のために何か協力しようという保護者の思いに対して、十分に対応することができなかった。

12 作成資料等

<平成24年度>

- リーフレット「小から中へ つながる 魅力ある学校」

<平成25年度>

- リーフレット「小から中へ つながる 魅力ある学校」

13 関連URL (※本事業に関連するものがあれば、ご紹介ください。)

なし

【問い合わせ先】

所属	茨城県教育庁義務教育課			電話	029-301-5229	
職名	指導主事	氏名	春原 孝政	よみがな	すのはら	たかまさ